

「命にしっかり向き合って」 東日本被災の佐藤さんが講演 三重・津

◎ 2017-11-03 ㊦ 中勢, 地域



【東日本大震災の体験を語る佐藤さん＝津市桜橋の市立橋北中で】

【津】東日本大震災当時宮城県女川町の中学校教諭だった佐藤敏郎さん(54)の講演会「3・11を学びに変える」が2日、三重県津市桜橋の市立橋北中学校（川合陽一郎校長）であり、全校生徒546人が聴講した。

佐藤さんは震災当時女川第一中の教諭。多くの児童・教員が命を落とした石巻市の大川小で次女を亡くした。一昨年に退職し全国で講演活動をしており、県建設技術センターの協力で橋北中での防災講演が実現した。

佐藤さんは、共に被災した中学生が震災後に募金を呼び掛け津波到達点に石碑を建てる活動などを紹介。「『震災さえなかったら』ではなく救われた命を未来を守るために使おうと志に換えて進んでいる子はたくさんいる」と話した。

自身の娘が亡くなった大川小では逃げる時間がありながら組織の意思決定ができず多くの命が失われたと分析。「命を救うのは判断と行動」と日頃の意識づけの重要性を挙げ「命はいつも大事。命にしっかり向き合って」と語りかけた。

3年生の齋藤陽奈さん(14)は「震災を人ごとと考えず自分から向き合い、語り継いで知ることが大事と感じた」と感想を述べた。